

令和元年度 市民との意見交換会・議会報告会実施報告書

分類	課題・問題点	解決策
保育 子育て	子どもたちの放課後の保障がしっかりとできているか。 鶉方児童館の放課後児童クラブへの変更で、今まで幼稚園から児童館へ行っていた子どもたちの土曜日午後の居場所がなくなるのは問題である。	市全体として、幼保の子どもたちの土曜日午後の居場所づくりが求められている。 鶉方児童館の放課後児童クラブへの変更で、土曜日午後の居場所がなくなる幼稚園児については、1年だけ、特例として放課後児童クラブの利用を認めるべきである。子育て支援サービスの後退は認められない。
	保育園の時間が短い。	放課後児童クラブ等の利用を保護者に周知する。
	児童館へ預けられるか心配。神明は預かり人数が少ない。申込で外れた場合どうするのか？	地域的な現状もあるが、人数等の枠を広げていく。
	放課後児童クラブでの預かり人数が不十分。	職員数の不足が原因と考えられる。有資格者を活用し、職員の負担減を考えては。
	ファミサポという制度があるのにうまく活用されていない。	制度内容が不明確。存在等の掲示、周知が必要。お試しなどが出来れば。
	子育て支援センターが遠くなってしまう地域に住んでいる場合、行きにくい。近くにほしい。(大王町の場合。現状の把握を行う。)	
遊び場	放課後の遊び場所がない。 放課後に学校施設を利用させてもらえない。 解放したときに発生する事故に対する学校側の警戒心。 雨天時の遊び場所がない。	(教育委員会で方針を出してほしい。) 老人の力を借りた見守りを進めるべきでは。 地域での見守り、地域で子育て、地域で学ばせる。 防災避難訓練は地域を巻き込んだ姿が現実的。 廃校となった体育館を活用できないか。(老朽化が心配。)
	夏場の暑い時期など戸外で長時間遊ばせられないが、室内公園などの施設もない。	空き施設を公園として開放してほしい。ホームページで情報提供があれば。
	市運営の公園施設において、管理が行き届いていなく、子どもと公園で遊ぶことが出来ない。	草刈りの回数を増やしてほしい。
	公園が少ない。整備されていない。(ともやま公園は猪で荒らされている。距離が遠い。)	
	各公園のトイレの洋式化を行ってほしい。 (子どもたちの中で和式トイレで用を足せない子が多くなっている為。)	
	磯部ふれあい公園の遊戯施設が故障していたが、現在も修繕が行われていない。	
通学	通学時の交通安全対策。	通学路の安全整備。 危険交差点の改良。 通学時における警察官による交通安全指導。
	安全な通学路の確保 ・グリーンベルトの役割を理解していない人がいる。 ・横断歩道で一旦停止してくれない運転手が多い。 ・スクールバス通学時のバス停の安全が不十分。特に志摩中学校区のバス停には危険を感じる。	何のためのグリーンベルトであるかを広く広報する。グリーンベルトは、各地域で優先順位をつけ毎年増加中。 グリーンベルト同様、広く訴えかける必要あり。 バス停の位置の変更を考える必要あり。

分類	課題・問題点	解決策
通学	小学校の通学路の安全対策。(立神地区から東海小学校への通学路に新設した歩行者用信号機の周知が不十分なため、通行車両が戸惑う事故が数件発生している。)	運転者への周知の方法を検討要。
	保育所・幼稚園は、保護者の送迎を原則としている。 送迎専用の駐車場が少ない。(狭い。)	
	地域コミュニティをより深く作っていく観点や、子どもたちの通学路の安全確保を地域ぐるみで行うために、台風等の天候においての小中学校の登校等に伴う情報を、各地域別に防災無線を通して地域すべてに情報共有を行ってほしい。	
	立神地区から東海小学校へ通っている児童の登下校を、徒歩による通学から市運営のバスまたは小型バスに変更してほしい。	志摩市が保有する青いバスを有効活用してほしい。
教育	子どもたちに豊かな環境が保障されているのか。 子どもたちの現状、問題点、起こっていることを知りたい。	子どもの貧困、学力不足など子どもの現状を正確につかむ努力が必要であり、保護者、教員、地域の連携が重要である。 そのためにも「地域教育」を市の教育行政の中にとしっかりと位置付け、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを具体化する。そのためのリーダーづくりも必要である。
	不登校問題。	学校での問題点の洗い出し。 しっかりした家庭教育。 教員のレベルアップ。
	いじめの増加。(認知件数がしっかりと把握されていない。) 教師のモチベーションの低下。(働き方改革の影響？教員の責任を追及するマスメディアの報道による影響から保護者からの声を恐れているためか、教員が本来すべき言動に躊躇が生じている。明らかなモチベーションの低下である。)	
	保育料の無料化について、経済的にありがたい。経済的な更なる負担軽減を望む。	小中学校の給食費の無料化。 保育料、給食費の無料化について。(子育て支援。)
病院	小児科、産婦人科がない。 急病に対する不安がある。(医療、救急)	国道167号(磯部バイパス)の早期完成。 有料道路の無料化で受診エリアの拡大。 市民病院の救急対応充実。 総合病院内に専門科の設置。 小児科の救急受け入れ可能な病院を市内に。 小児科の常設。
その他	親子の会話・話し合いをしっかりしてほしい。	
	子育て支援センターのイベントカレンダーなどがインターネットで見られるようにしてほしい。	ホームページ等への掲示。
	施設入口や配置等がわかりにくい。	配置等の掲示。
	市役所の窓口対応が悪い。(手続きへの対応が遅い。職員の素早い対応の指導を望む。)	
	幼保園の申請手続きの連絡が遅い。(役所から現場幼保園への連絡が遅れるため、保護者は証明書等の作成に時間がなく困る。)	

分類	課題・問題点		解決策
人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、市内に就きたい仕事がない。 ・現状では「若い世代が働く場がない。だから公務員になりたい。」「自分の子どもは市外へ出してあげたい」などの声が多い。 ・子育て支援においての人口減少を食い止める手法としては、医療の充実や学校給食の充実等、両親の働く場の選択肢をいかに増やせるか。(近隣の市町と比べても、子育て政策は充実していないと感じる。) ・地域全体が介護傾向にある。(高齢化) 		<p style="text-align: center;">雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の人口を増やすためには、子育て支援の充実だけでなく、やはり働く場所づくりが必要。水産業・観光業など基幹産業の回復・振興は前提。 ・高齢化社会に対応して、医療・介護・福祉の拡充が求められているが働き手不足となっている。この分野で働き手を増やし、人口を増やすことを一つの戦略としてはどうか。そのためには労働条件の改善・向上が必要。 ・地元企業では地元出身の大卒者の就業を進めている。(雇用) ・起業家として一人何役も行う必要がある。業としても何通りかの組み合わせが必要。(経済)
			<p style="text-align: center;">交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通網を整備し市外通勤をしやすくする。 ・有料道路の無料化で通勤可能エリアの拡大。
			<p style="text-align: center;">教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特性を生かせる企業との協働。 ・志摩市独自の産業高校、大学の誘致。教育貧乏の歯止め。学校に入れるとお金がかかる。(学費、通学費、下宿費。)
			<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがもっと多くほしい人に対し、3人目以上の子育て家庭に、ファミリーカーの自動車税の軽減措置を児童手当以外に設ける。祝い金の創設。
			<p style="text-align: center;">祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域伝統を生かすとともに、後継者の育成に力を入れる。 ・イベント活動に若者の参加を促し、若い力を生かす。 ・新しいイベントを考える。
			<p style="text-align: center;">その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居、借家等を安価になるようにしてほしい。(アパートレベルになるように助成。) ・テーマパークの優待券存続で市民メリットの継続。 ・今住んでいる人が「ここは良い地域だ」と思う地域にしなければならない。 ・行政としてできることを考える。 ・できる所から、効果的な所から進める。 ・先進地の活動をもっと学ぶことが必要。